



決定!「第36回 うつのみやこども賞」

『^{こっかい}羊の告解』(いとう みく/著)

第231号の主な記事

- 1面 第36回うつのみやこども賞決定
- 2面 うつのみやこども賞とは・子どもの家への出張団体貸出サービスの実施・きずなふく・予約ベスト10
- 3面 高校生による高校生に向けた読書情報の発信について・調べ方のツボ
- 4面 しせつめぐり・第18回ふみの森もてぎ図書館



1年間で10回開催された選定会議。
回数を重ねるたびに、選定委員同士の
意見交換が活発になっていきました!

どしどし
がん

第231号
令和2年6月1日
宇都宮市立
中央図書館
東図書館
南図書館
上河内図書館
河内図書館

読めば
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

◆選定委員の感想◆

○お父さんを通して主人公の心の変化や周りの人の変化がとてもこまかく書かれていて、スラスラ読めたし、分かりやすかった。

○初めてこのような本を読んでとても心に残った。家族に罪を犯してしまった人がいる人たちの苦しみを知ることができたのでよかった。

○もし自分も加害者家族になったらどうだろうと考えるだけでもなみだが出てきた。「犯罪」というものを深く考えさせられる本だからこそ友達にも読んでほしい。

○人生のすべてがハッピーエンドとはいえないけれど、がんばろうという勇氣をもらった。

○主人公の行動力にはびっくりしてしまいました。私がこの立場だったらこわれてしまいそう。加害者家族の気持ちや苦しみが少しかかる。



『羊の告解』
いとう みく/著
(静山社 2019)

いつもと同じ光景、いつもと同じ朝食、いつもと同じ朝、中学3年生の涼平の父親が、逮捕された。容疑は殺人。何かの間違いか、そうでなければ事故だったと信じていた涼平だが…。

ある日突然「加害者家族」となった少年の、再生とゆるしの物語。

うつのみやこども賞とは…
市内小学校5・6年生の選定委員が、1年間に40冊の日本の新刊児童文学を読み、その中から、友達に最もすすめたいと思う本に贈られる賞です

令和2年3月1日、「第36回うつのみやこども賞」の受賞作を選ぶ令和元年度最後の選定会議を開催しました。

選定委員20名のうち16名が出席し、新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの会議になりました。

候補に残った作品は、どれも味わいが異なり、「うつのみやこども賞」として最もふさわしいのはどれか、選定委員の中でも意見が割れて、最後まで白熱した議論が交わされました。

受賞作に選ばれた『羊の告解』は、ある日突然「加害者家族」になった少年を主人公にした物語で、重いテーマを扱っていますが、多くの選定委員から、「ニュースで加害者を見るときの視点が変わった」「個人を尊重する大切さに気付いた」など、初めての読書経験を得たと高い評価を受けました。

小学生の皆さんはもちろん、中学生から大人の方まで手に取っていたきたい1冊です。

『羊の告解』の著者いとう みく先生をお招きして、受賞記念講演会を開催する予定です。詳しい日程が決まり次第、「広報うつのみや」や図書館ホームページ、イベント情報などでお知らせします。

子どもの家への出張団体貸出サービス



中央図書館では、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休館している期間中、なんとか子どもたちに本を届けたいという思いと、小中学校の臨時休業中も開所している市内の「子どもの家・留守家庭児童会」を支援するため、図書館司書が選んだ本を子どもの家に届ける出張団体貸出サービスを行いました。

子どもの家を利用している児童の学年や人数、「折り紙」「料理」「電車」といった借りたい本の要望にあわせて、図書館司書がおすすめの本を40冊選び、各施設まで届けました。図書館の職員が本を持っていくと、すぐに子どもたちが寄ってきて、読みたい本を楽しそうに選んでいました。

延べ16団体にご利用いただき、指導員の方からは「子どもたちが待っていた」「本を届けてもらえてありがたい」という声をいただきました。



図書館司書が選んだ本を
子どもの家にお届けしました



きぶなぶつく！

南図書館では3月25日（水）から4月7日（火）までの間、新型コロナウイルス感染症がこれ以上拡大しないよう、黄鮒（きぶな）に願いを込めて、職員が選んだブックパックを『きぶなぶつく！』として用意し、コーナーを作りました。

利用者の皆さんが気軽に選べるよう、テーマに合わせた2〜3冊の本をセットにしました。大人向けだけでなく、子ども向けも用意したところ、たくさんの方に借りていただきました。



宇都宮の伝説「黄ぶな」

昔、宇都宮に天然痘が流行し、多くの病人がでました。
ある日、信仰深い村民が、病人に食べさせるため、魚釣りに出かけ、釣り上げた大きな黄色の鮒（フナ）を病人に与えたところ、病気が治ったと伝えられています。

順位	タイトル	著者名	出版社
1	クスノキの番人	東野 圭吾	実業之日本社
2	希望の糸	東野 圭吾	講談社
3	流浪の月	風良 ゆう	東京創元社
4	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
5	ライオンのおやつ	小川 糸	ポプラ社
6	そして、バトンは渡された	瀬尾 まいこ	文藝春秋
7	落日	湊 かなえ	角川春樹事務所
8	FACTFULNESS	ハンス・ロスリング	日経BP社
9	カケラ	湊 かなえ	集英社
10	大家さんと僕	矢部 太郎	新潮社

予約
ベスト10



令和2年6月1日現在
最新版はホームページ
でもご覧いただけます。



館内に設置している検索機（OPAC）

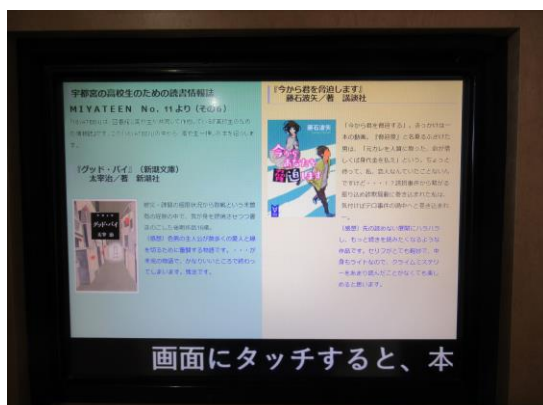
図書館サービス あれこれ

高校生による高校生に向けた読書情報の発信について

図書館では資料検索機を活用し、高校生によるおすすめ本の情報発信を行っています。

図書館内に設置している資料検索機（OPAC）は、図書館の蔵書を調べるときに利用できるほか、操作されていないときには、読書に関する情報を発信しています。

現在、高校生のための読書情報誌「MIYATEEN」より、高校生のおすすめする本の情報が見られます。



画面で紹介しているのは高校生のための読書情報誌「MIYATEEN」に掲載されている本です

一画面には2〜3冊の本が表示され、あらすじのほかには高校生の感想が紹介されています。約30秒で次の画面に展開し、画面に触れると資料検索の画面に切り替わります。ぜひご覧になってください。思わず読んでみたくなる本など、新しい本との出会いがあるかもしれません。

今後も定期的に内容を変えて、情報を発信していく予定です。



実際に図書館で質問を受けた事例を紹介するコーナーです。

調べ方

特定の商店街について調べているわけではなかったので、宇都宮市の中心市街地である馬場通りや日野町周辺についての資料を探しました。また、宇都宮市内の写真が掲載されている資料も調べました。

回答

『馬場町ものがたり』P47〜P53

（宇都宮市馬場町々会誌発行委員会／編 宇都宮市馬場町々会 1981年）

『日野町の歴史』P186〜P201（徳田浩淳／著 篠崎材木店 1981年）

・馬場町通りや日野町が、宇都宮空襲から復興し、商店街としてのスタイルが整うまでの過程を解説しています。

『釜川とまちめぐり』P92〜P206（水島潔／著 随想舎 2011年）

・第3章「商店街の歴史」では、宇都宮市内の各商店街の変遷を写真とともに紹介しています。

『目で見る 宇都宮の100年』P102〜P105（大町雅美ほか／編 郷土出版社 2000年）

『保存版 宇都宮今昔写真帖』P32〜P37（郷土出版社 2010年）

『宇都宮市の昭和』P94〜P96（いき出版 2016年）

・バンパ通りが明治期の仲見世から起り、終戦後の復興を経て、宇都宮市の中心市街地として発展していく過程や、にぎわう様子を写真とともに解説しています。



しずくめくら

第18回 ふみの森もてぎ図書館

ふみの森もてぎ図書館は、歴史ある酒蔵蔵元の跡地に、平成28年7月に開館しました。「ふみ」は、文化の「文」、歴史の「史」、書物の「書」を意味し、「森」は、茂木の自然木の建築、豊かさ恵みを意味しているそうです。

また、建物は、天井に木材が張り巡らされ、柔らかな空間となっています。



一般書コーナー

カウンターの前には、新聞・雑誌コーナーがあります。隣にある素敵なカフェで休憩することもできます。

そのまま進むと、「森の道しるべ」という特設コーナーがあり、季節やテーマに合わせた展示が行われています。このコーナーの形は上から見ると、図書館のロゴマークと同じです。



森の道しるべコーナーと図書館のロゴマーク



入り口にあるタヌキの置物。元の建物である酒蔵蔵元にあったもの。

この図書館では、独自の分類法で書架に本を並べています。AからCは目的や用途による分類、DからHは事象に即して宇宙、地球、自然、環境、世界、日本、社会、経済、産業、情報、文化、歴史、人間といった基礎的カテゴリーにそった分類です。たとえば、「C 人生をたのしむ」の棚には、スポーツや音楽、演劇、観光、現代の文芸作品の本が並びます。



一般書コーナーの奥には学習室とグループ学習室があり、学生が勉強によく利用するそうです。2階には、外の景色が見える読書室があり、静かな空間で読書を楽しめます。



2階 読書室

子ども読書室の「ゆずもんち」には靴を脱いで座れるコーナーやおはなし会ができるスペースがあります。

また、同じ建物の中には、ギャラリーや交流施設、歴史資料展示室があり、いろいろな作品や展示を楽しむことができます。

DATA

ふみの森もてぎ図書館

■所在地 〒321-3531 芳賀郡茂木町茂木 1720-1

■連絡先 0285-64-1023

■休館日 月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）、
臨時休館日

■開館時間（当面の間）

平日 午前9時から午後6時

土・日・祝 午前9時から午後5時

※開館時間は変更になることがあります。

詳しくはホームページでご確認ください。

■ホームページ <https://fuminomori.jp/>



お話を伺った取材当時の関館長と小峰係長

職員からひと言

ふみの森もてぎ図書館は、緑豊かな茂木の木材を使った建物が魅力です。歴史の浅い小さな図書館ですが、本の品ぞろえに味があつて、並べ方もユニークです。宇都宮のみなさん、来てみませんか。

館報としょかん 第231号

ホームページ <https://www.lib-utsunomiya.jp/>
(編集発行)

中央図書館	明保野町7番57号	〒320-0845	TEL028-636-0231
東図書館	中今泉3丁目5番1号	〒321-0968	TEL028-638-5614
南図書館	雀宮町56番地1	〒321-0121	TEL028-653-7609
上河内図書館	中里町182番地1	〒321-0414	TEL028-674-1123
河内図書館	中岡本町3397番地	〒329-1105	TEL028-673-6782



◆編集後記

普段通りの生活ができることの有難さを改めて感じます。

自宅で長く過ごす時間が多い中、気になっていた本を読んだり、音楽を聴いたりするのいいですね。

(中央)